

# 中村園太夫座気仙沼公演

中村園太夫座 座長 西村 忠雄 さん(65歳・新野町)

「漁業のまち気仙沼を私たちの恵比寿舞で励ましたい！」と、昨年10月から準備と練習を重ねてきた中村園太夫座総勢19人が、伊丹空港を発ち仙台空港に降り立ったのは7月6日の午後1時過ぎのことである。

その日は、気仙沼市教育委員会の案内で公演会場の下見をし、宿泊先の市内のホテルで夕食をとったが、まだ厨房が復旧していないとかで、食事はすべて外注していると聞いた。7日は、気仙沼市本吉町にある「はまなすホール」で午後6時30分からの公演であったため、午前中は気仙沼市教育委員会に被災現場をバスで移動しながら説明を受けた。

最初、こんな原っぱの真ん中にどうして高校なんか建てたのかと思っただら、高校の周りの住宅街がすべて津波で流されたらと聞いて愕然とした。よく見れば、雑草の下に民家の基礎が残っている。あの日の津波は、工場の機械音も、商家の賑わいも、家庭のだんらんも、何もかも流し去ってしまったのだ。

8日は、気仙沼市西八幡町にある鹿折小学校体育館で午後1時30分

から公演を行った。この日は、昨日の倍以上に当たる150人ほどの観客があり、座員一同大張り切りで各演目を務めた。なかでも一番反響が大きかったのが「恵比寿舞」だった。もともと、この恵比寿舞は大漁祈願の舞であり、今回は気仙沼の港が大漁になることを願って色々とアレンジを施して出かけてきた。

気仙沼といえば、サンマ・カツオ・マグロの水揚げで全国的にも有名である。これらの魚を特別に釣り上げることにして模型を作り、恵比寿様が順番に釣り上げていくと、会場全体がどよめき大きな歓声と拍手に包まれた。みんなうれしそうな顔をして笑っている様子を見て、「気仙沼まで来て本当に良かった」と、心の底から感動と感激が胸にこみ上げてきた。

この鹿折小学校には140名の高さの津波が襲いかかり、1階にはまだ使えない教室が残されている。頑張ったという願いを込めた新野小学校児童からの激励のメッセージを預かってきたので、幕間に鹿折小学校の校長先生に手渡した。遠く離れた



▲気仙沼バージョンで披露された恵比寿舞。恵比寿様が釣り上げたのは大マグロ。



▲宮城県名取市で笹かまぼこ店を営む佐々木靖子さん(新野町出身)を訪問。

児童たちの小さな交流の絆が、これから時間をかけて太くなっていくことを願っている。9日は、午前中、名取市の被災現場を新野町出身の女性に案内してもらい、お土産に「笹かまぼこ」をいっぱい買い込み、伊丹空港へと仙台空港を飛び立ったのは午後3時前のことである。



地盤沈下したまち並みの随所に浸水が見られる。未だ復興の目途は立っておらず、打ち上げられた大型貨物船が津波被害の凄まじさを物語っている。



▼鹿折小学校の体育館で人形浄瑠璃を上演する様子。